

Operation Manual

Operation Manual

取扱説明書

キャリア ATF-140N-5

型式記号：ATF-140N-5.1
適用製造番号：GC5198 ~

この取扱説明書を読んでから操作してください。
この取扱説明書はいつでも読めるよう、運転室内に保管してください。

取扱説明書

ATF-140N-5.1(C)_OM2-21J

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

事故を防止するためには危険予知が大切です。

管理者・作業従事者は作業に潜在する危険を認識し、それに対する適切な対策を講じてください。

あなたにとって最も重要な義務は、あなた自身や共同作業員、周囲の人の安全を確保することです。

本書中のイラストが実物と異なる場合がありますが機能や操作は同じです。

本機の一部または全部を複製、編集、複写、配布するときは、タダノの書面による承認がある場合にのみ許可されます。

タダノの承認を得ないいかなる種類の複製、配布、またいかなる形においてのデータの複写も著作権の侵害となります。

機械の改良、または安全水準の向上のために、本書の内容が予告なく変更されることがあります。

本書に関して疑問な点がありましたら、タダノ支店、営業所にご連絡ください。

本書は製品の一部です。本機を譲渡するときは、本書およびメンテナンスノートも次の所有者にお渡しください。

方向の表現

前進：キャリヤ運転室側を先頭に走行

後退：キャリヤのテールランプ側を先頭に走行

本機の前・後・右・左とは、キャリヤ運転室とブーム先頭が同じ側にある状態を基準としています。「前」とはキャリヤ運転室側のことです。

キャリヤ運転室内の前・後・右・左とは、キャリヤ運転室のみを基準としています。つまり、キャリヤ運転室側が常に「前方」になります。

クレーン運転室内の前・後・右・左とは、上部旋回体のみを基準としています。つまり、ブーム先端の方向が常に「前方」になります。

オプション

オプション、および特別装置には「*」を付けています。

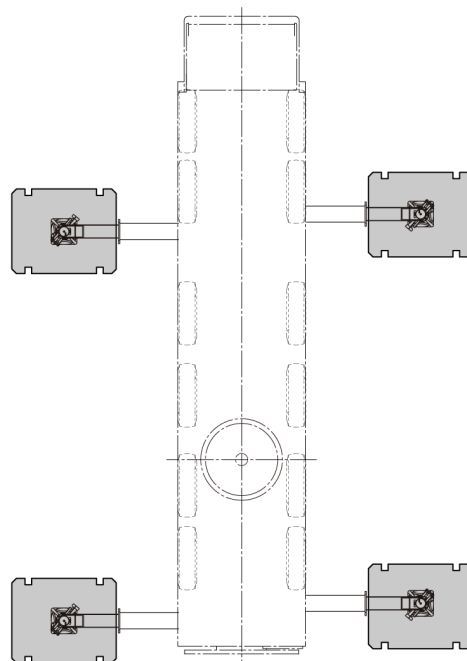
10.6.2	各部の名称	241
10.6.3	トランスファ切り替え操作	241
10.7	ブレーキ操作	243
10.7.1	原理	243
10.7.2	安全上の注意	243
10.7.3	各部の名称	244
10.7.4	フットブレーキ操作	245
10.7.5	パーキングブレーキ操作	245
10.7.6	ブレーキをかけ続けるには	247
10.7.7	ABSのオフロードモード操作	250
10.8	クルーズコントロール操作	251
10.9	サスペンション操作	254
10.9.1	安全上の注意	254
10.9.2	各部の名称	255
10.9.3	傾斜調整	256
10.9.4	走行用の車高調整	257
10.9.5	アクスル揺動操作	258
10.10	構内移動	260
10.10.1	安全上の注意	260
10.10.2	各部の名称	261
10.10.3	構内移動するには	262
10.10.4	主巻フックを構内移動用に格納	264
10.10.5	主巻フックをキャリヤ運転室前側から取り出し	265
10.10.6	つり荷走行	265
10.10.7	構内移動時の軸重	267
10.11	本機の駐車	272
10.11.1	安全上の注意	272
10.11.2	本機の駐車	272
11	冬期の走行	273
11.1	安全上の注意	273
11.2	エンジン	274
11.2.1	燃料	274
11.2.2	エンジンオイル	274
11.2.3	クーラント	274
11.2.4	AdBlue	274
11.3	油圧系	275
11.4	トランスミッション	276
11.5	ウォッシャー装置	276
11.6	タイヤチェーン	276

7	右コンビネーションスイッチ	ステアリングコラムのスイッチ [61 ページ]
8	メーターパネル	キャリヤ運転室内のメーターパネル [52 ページ]
9	側方クリアランスランプ	灯火類 [48 ページ]
10	シフトレバー	シフトレバーとシフトスイッチ [63 ページ]
11	特殊ステアリングパネル	特殊ステアリングパネル [64 ページ]
12	ミラー調整ノブ	バックミラーの調整 [155 ページ]
13	パーキングブレーキ	パーキングブレーキ操作 [245 ページ]
14	メインディスプレイ	メインディスプレイの操作 [100 ページ]
15	メインディスプレイコントローラ	操作装置の位置 [104 ページ]
16	タコグラフ	タコグラフ [65 ページ]

1.3 作業時の注意

- 敷板を敷いて設置する

敷板を敷かないで機械を設置すると、地盤が沈下する恐れがあります。アウトリガを設置するときは、ジャッキフロートの下に敷板を敷いてください。

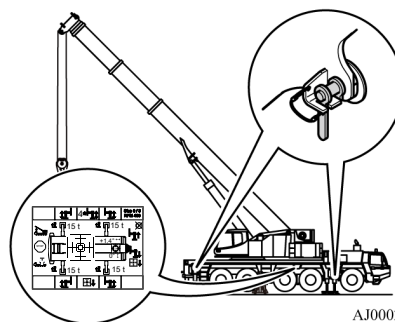


AJ00027-0

- アウトリガ設置状態を確認する

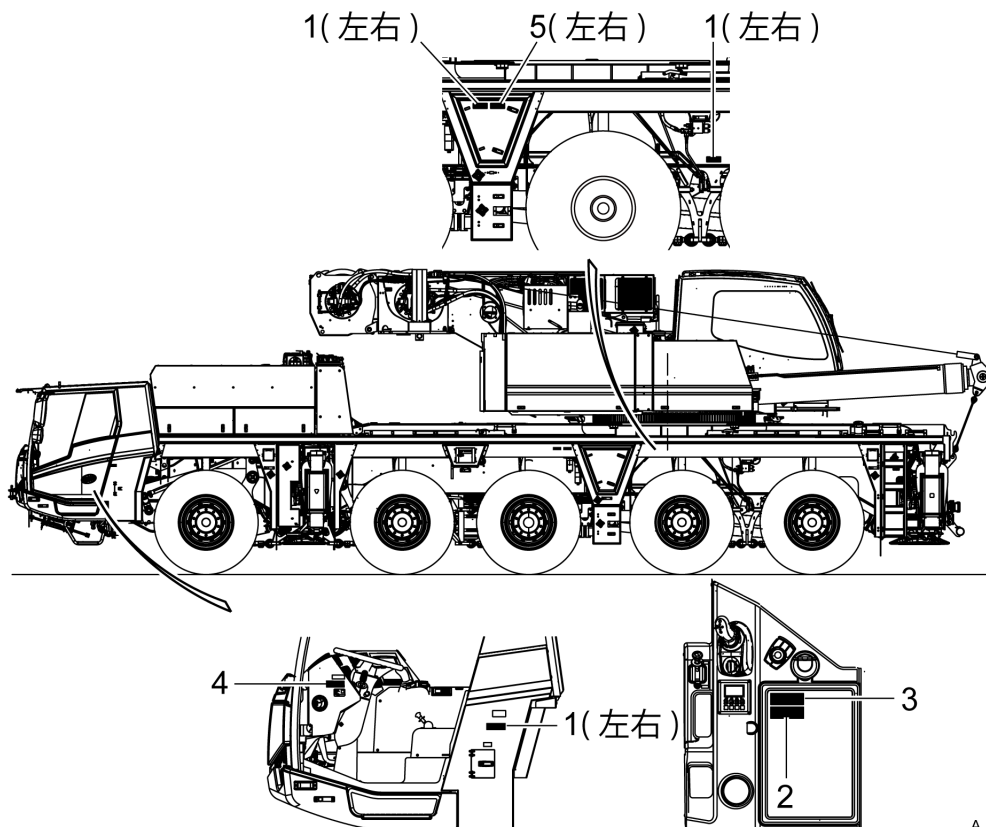
アウトリガの設置状態が悪いと、転倒事故の原因になります。特に次のことを実施および確認してください。

- 機体が水平に設置されていること。
- アウトリガフロートが敷板に接地していること。
- すべてのタイヤが地面から離れていること。
- アウトリガビームがロックピンで固定されていること。



AJ00029-0

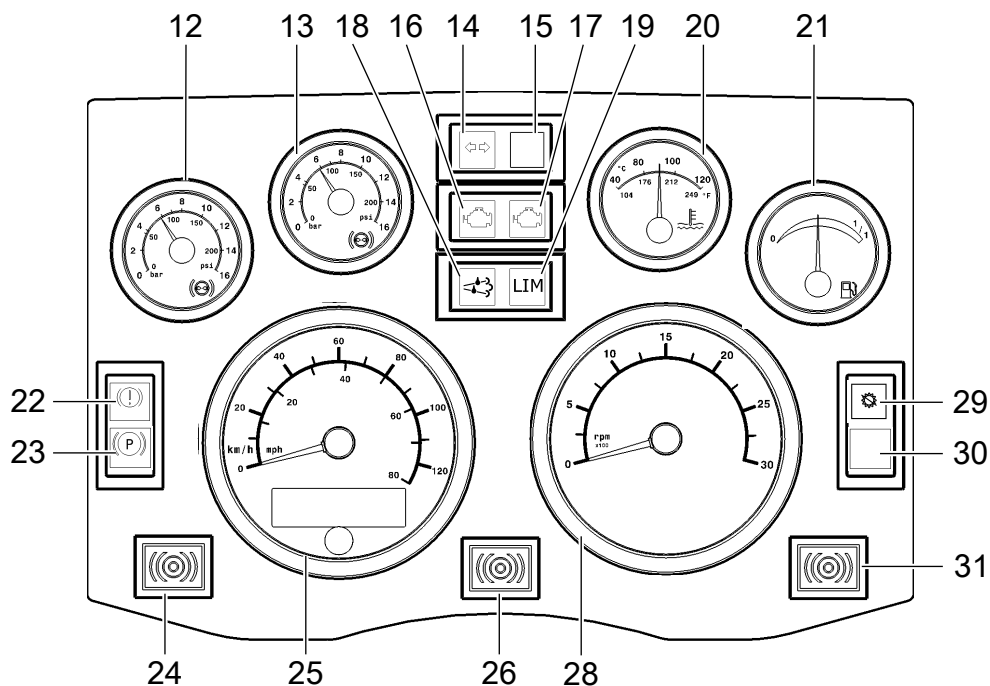
2.1 ラベル位置と警告内容



AJ10564-0

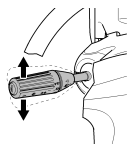
1. **⚠️ 危険** 挟まれ危険 (6カ所)
2. **⚠️ 警告** サスペンション操作時注意
3. **⚠️ 警告** 一般取り扱い注意
4. **⚠️ 警告** ホイールナット締付トルク注意
5. **⚠️ 警告** 配管分解禁止 (2カ所)

メーターパネル2



12	エア圧力計（ブレーキ回路I）	フットブレーキの作動具合 [369 ページ]
13	エア圧力計（ブレーキ回路II）	フットブレーキの作動具合 [369 ページ]
14	方向指示表示灯	室内表示灯の点検 [374 ページ]
15	—（不使用）	
16	エンジン故障警告灯（緊急）	オーバーヒートしたとき [297 ページ]
17	エンジン故障警告灯	
18	AdBlue警告灯	AdBlue警告灯が点灯したとき [321 ページ]
19	エンジン作動制限警告灯	AdBlue警告灯が点灯したとき [321 ページ]
20	水温計	エンジンの始動 [219 ページ]
21	燃料計	エンジンの始動 [219 ページ]
22	ブレーキエア低圧警告灯	ブレーキ操作 [243 ページ]
23	パーキングブレーキ警告灯	パーキングブレーキ操作 [245 ページ]
24	エンジン故障警報ブザー	オーバーヒートしたとき [297 ページ]
25	スピードメーター、トリップメーター	エンジンの始動 [219 ページ]
26	トランスミッション故障警報ブザー	トランスミッション操作ができないとき [318 ページ]
28	タコメーター	エンジンの始動 [219 ページ]
29	トランスミッション故障警告灯	トランスミッション操作ができないとき [318 ページ]
30	集中警告灯	
31	ステアリング/ブレーキ故障・エア低圧警報ブザー	ステアリング装置に不具合が生じたとき [319 ページ]

方向指示器



スイッチを押し上げると、キャリヤ右側の方向指示器が作動します。

スイッチを押し下げると、キャリヤ左側の方向指示器が作動します。

ホーン

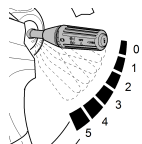


コンビネーションスイッチの押しボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

参考：ステアリングハンドルの真ん中を押してもホーンが鳴りません。

右コンビネーションスイッチ

エンジンブレーキ/自動ブレーキシステム/リターダ



0位置：エンジンブレーキ/自動ブレーキシステムが作動不可

1位置：エンジンブレーキと自動ブレーキシステムが作動可能

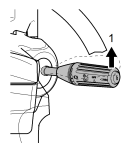
2位置：リターダ40%+エンジンブレーキ

3位置：リターダ60%+エンジンブレーキ

4位置：リターダ80%+エンジンブレーキ

5位置：リターダ100%+エンジンブレーキ

クルーズコントロール

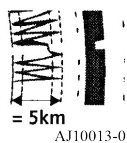


1位置：クルーズコントロールが作動可能

参考：クルーズコントロールを作動させるためには、走行/作業状態切替スイッチ（クルーズコントロールスイッチ）をONにしてください。

4 操作装置の各部の名称

走行距離：エンジン始動/停止スイッチをONにした後、走行距離は時間と移動距離に関して正確に継続記録されます。



上下の振幅が5kmに対応します。

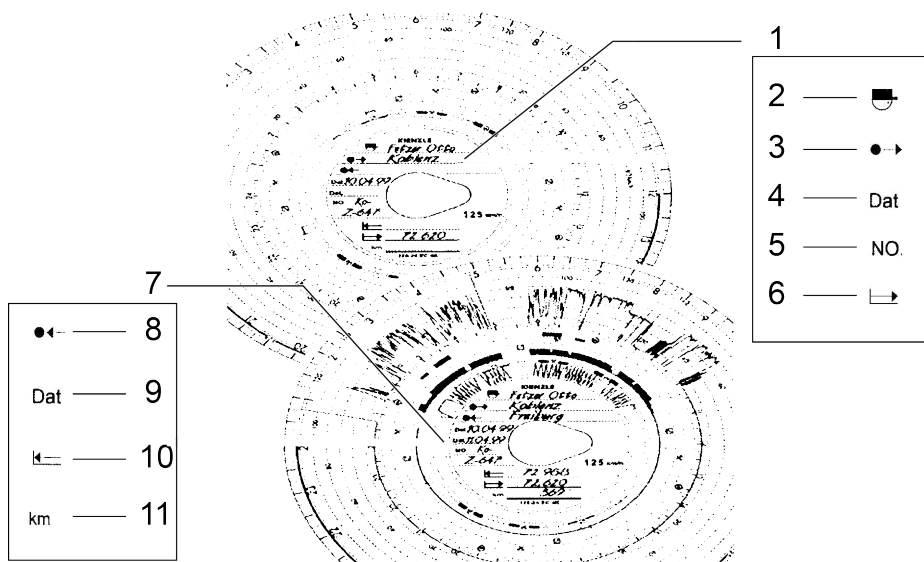
次の場合は距離の記録が中断されます。



- 両方のドライバーの作業時間が休憩時間“H”に設定されている。
- エンジン始動/停止スイッチがOFFになった。
- 追加機能（オプション）が作動しなかった。

追加機能の記録（オプション）：追加作業グループ（青色灯、サイレンなどの使用）を記録します。

中央記入欄：



AJ10012-0

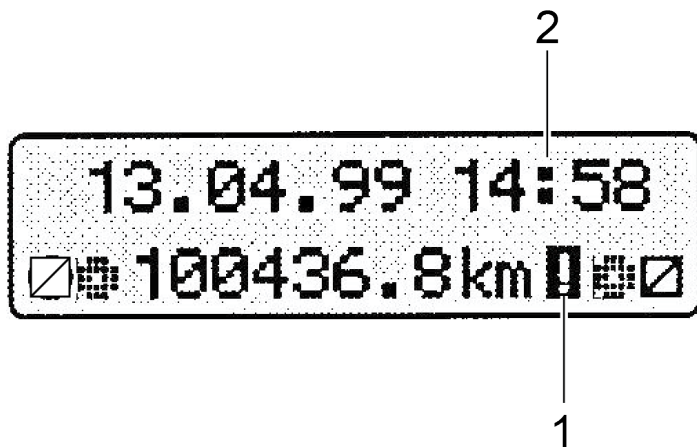
1	走行前に記入する欄	7	走行後に記入する欄
2	ドライバーの氏名	8	到着地
3	出発地	9	記録紙を取り出した日付（下側の行）
4	セットする日付（上側の行）	10	走行終了時のオドメーターの値（走行距離）
5	車両登録番号	11	走行距離
6	走行開始時のオドメーターの値（走行距離）		

4.6.10 トラブルシューティング

メッセージの表示

タコグラフは、システムの機能をモニターして、故障を知らせます。

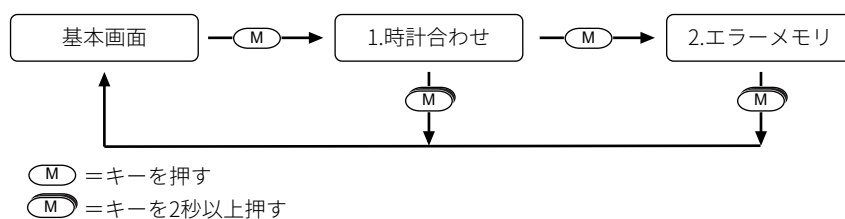
メッセージや注意は、トレイを閉じた直後または故障が生じたときに表示されます。



AJ10023-0

- 1: 「!」マークが走行距離表示の横に出ます。
- 2: エラーの種類によって、時刻表示全体が点滅します。または、桁間のコロンの点滅が止まります。
- エラーは電子メモリに記録されます。
 - 「エラーメモリの表示」を参照してください。
- 故障はタコグラフの記録紙に記録されます。
 - 「故障情報の記録」を参照してください。

エラーメモリの表示




AJ90012-0

エラーメッセージの原因を調べるときは、エラーメモリメニューを参照してください。

エラーメモリ表示機能は、車両が止まっている場合のみ選択できます。

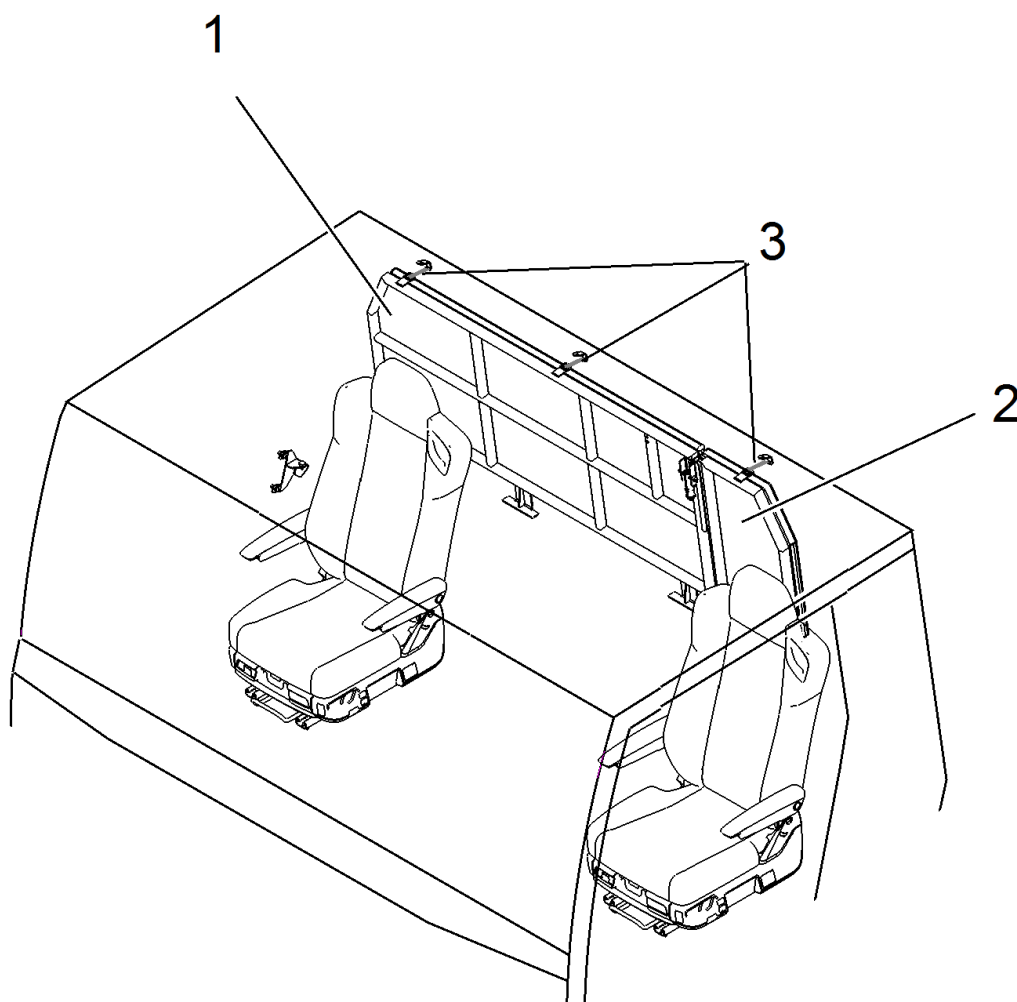
4.11 仮眠ベッド

安全上の注意

	⚠ 警告
	<p>仮眠ベッドが落ちてきて事故を起こす恐れ 走行するときは仮眠ベッドを上げ、落ちてこないように固定してください。</p>

各部の名称

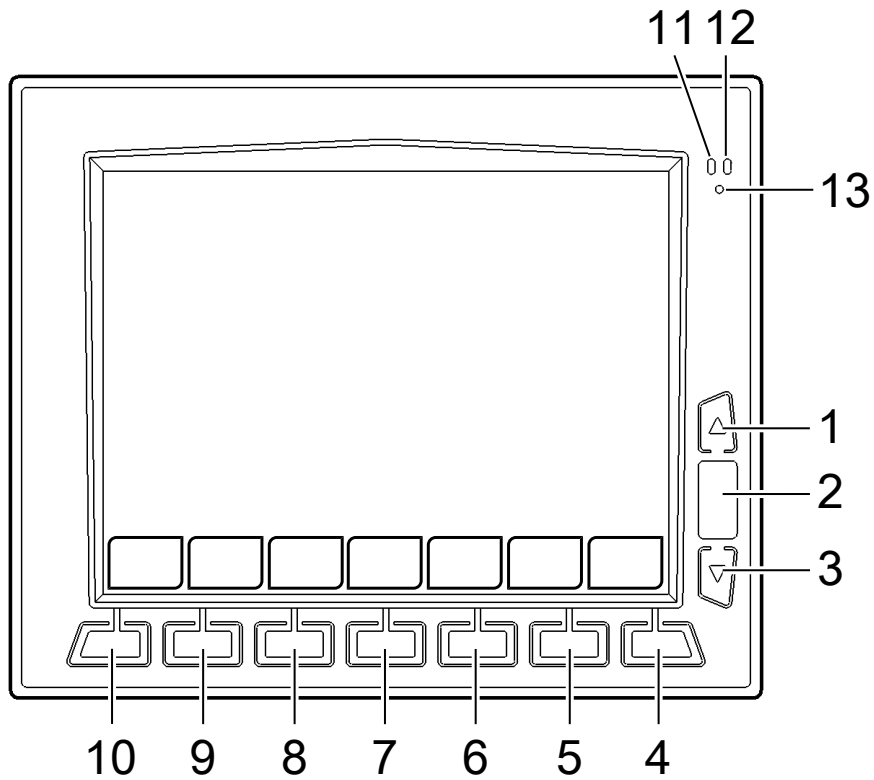
格納姿勢



15408

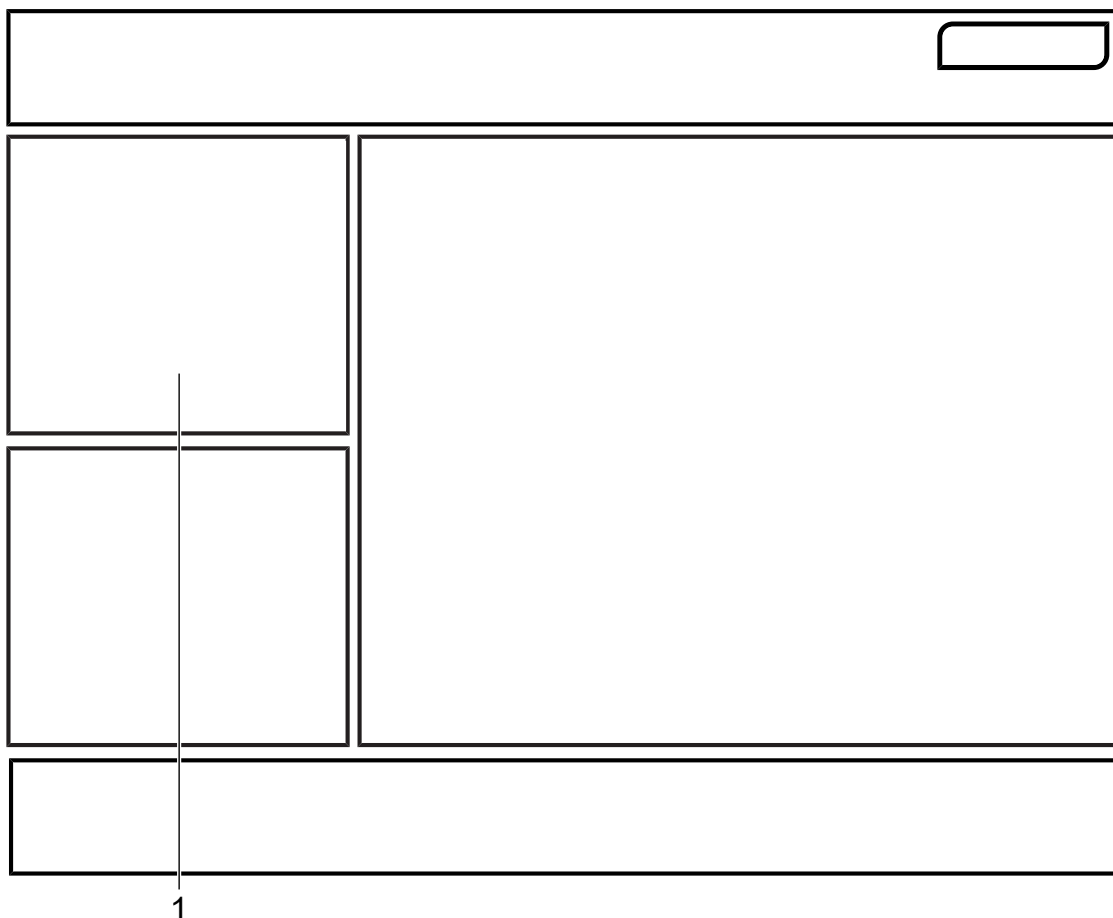
1	仮眠ベッド本体	3	ストラップ (3本)
2	仮眠ベッド延長部		

メインディスプレイ



1	上ボタン	8	アウトリガ情報ボタン
2	実行ボタン	9	駆動軸・デフロック・特殊ステアリングボタン
3	下ボタン	10	戻りボタン
4	ユーザー調整メニューボタン	11	通信正常（緑）表示灯
5	カメラ画像ボタン	12	通信異常（赤）表示灯
6	エンジン情報ボタン	13	明るさセンサ
7	サスペンションボタン		

5.3.5 表示アイコンおよび警告アイコン



1	表示アイコンおよび警告アイコン
---	-----------------

以下の表示アイコンや警告アイコンが、事象の発生順に表示されます。

特殊ステアリングアイコン



ステアリングモード切替スイッチが特殊ステアリングに切り替わることを示します。

参考：シフトアップは3速までしかできません。

脱出ステアリングアイコン



特殊ステアリングの脱出ステアリングが有効になっていることを示します。

クラブステアリングアイコン



特殊ステアリングのクラブステアリングが有効になっていることを示します。

クランプステアリングアイコン



特殊ステアリングのクランプステアリングが有効になっていることを示します。

5.6 サスペンションメニュー

はじめに

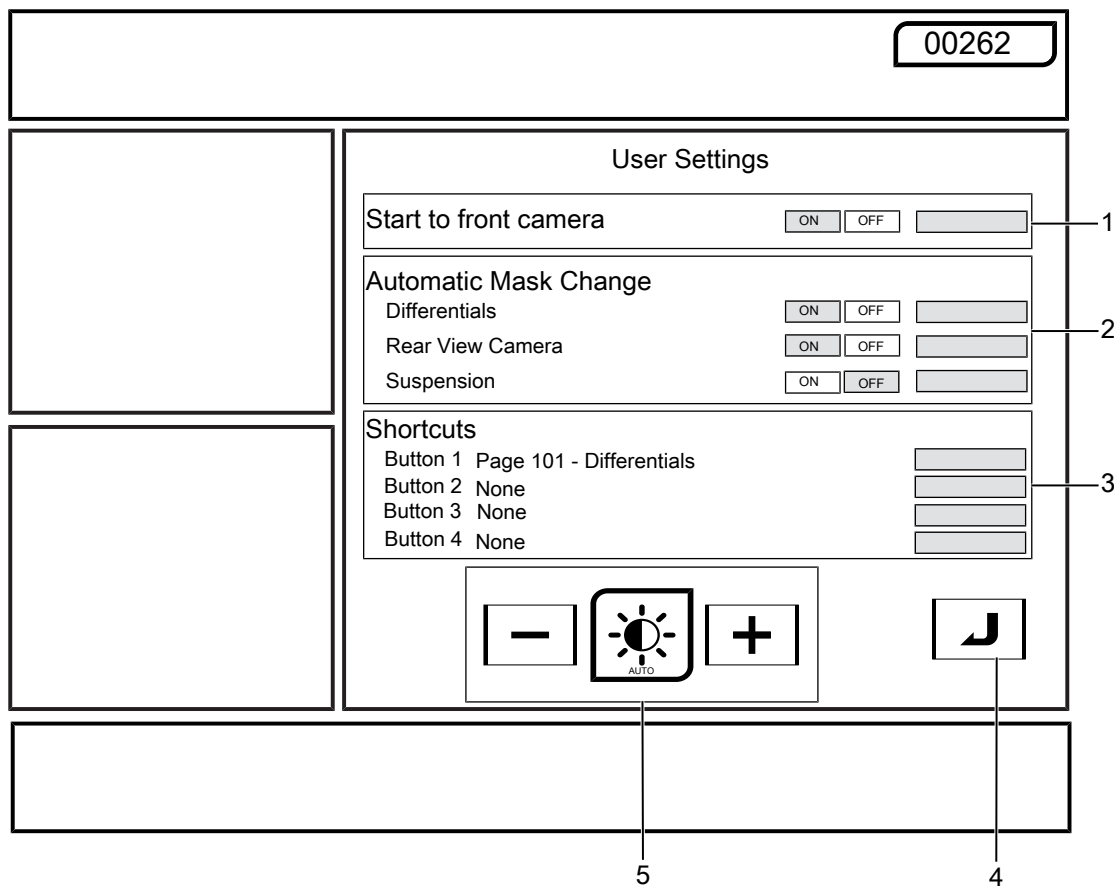
操作パネルで以下のスイッチを押すといつでもサスペンションメニューに進めます。

- サスペンションロックスイッチ
- 左後サスペンションスイッチ
- 右後サスペンションスイッチ
- 左前サスペンションスイッチ
- 右前サスペンションスイッチ
- アクスル揺動スイッチ
- 車高スイッチ

注記： このメニューが自動的に表示されるかどうかはメニュー自動切替メニューで切り換えることができます。詳細は[メニュー自動切替設定](#) [[▶ 134 ページ](#)]を参照してください。

5.12 ユーザー設定メニュー

各部の名称



1	起動時前方カメラ表示設定	4	実行ボタン
2	メニュー自動切替設定	5	輝度設定
3	メインディスプレイコントローラのキーへの機能割り当て設定		

設定とボタン

起動時前方カメラ表示設定



前方カメラからの画像が自動的に表示されるようにします。

詳細は[起動時前方カメラ表示設定](#) [133 ページ]を参照してください。

メニュー自動切替設定



メニュー自動切替の設定を変更します。

詳細は[メニュー自動切替設定](#) [134 ページ]を参照してください。

メインディスプレイコントローラのキーへの機能割り当て設定





メインディスプレイコントローラのキーへの機能割り当てを変更します。

7 作業の準備

7.1 キャリヤ運転室



7.1.1 ドア

安全上の注意

	⚠ 警告
	<p>ドアが開いて事故が起きる恐れ</p> <p>キャリヤ運転室のドアがきちんと閉まっていないと、走行中に開くことがあります。</p> <p>運転室から人が転落する恐れがあります。</p> <p>走行中にドアが急に開くと事故の原因となる恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 走行の前にキャリヤのドアを閉めてください。2. シートベルトを締めてください。
	⚠ 注意
	<p>キャリヤ運転室ドアを閉めるとき負傷する恐れ</p> <p>外枠を掴んでキャリヤ運転室のドアを閉めると、指が挟まれる恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ドアを閉めるときはドアハンドルを持ってください。

7.1.3 ハンドルの調整

安全上の注意

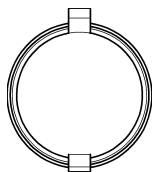
	<p>⚠ 警告</p> <p>走行中のハンドル調整による事故の恐れ</p> <p>走行中のハンドル調整を禁止します。調整中に運転を誤り、事故の原因になります。</p>
	<p>⚠ 警告</p> <p>ハンドルの固定不十分による事故の恐れ</p> <p>ハンドルの固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、事故の原因になります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 確実に固定されていることを確認してください。

7.1.8 電源ソケット



エンジンがかかっていないときに電源ソケットを使用すると、本機のバッテリーが放電します。

1. バッテリーを早めに充電してください。



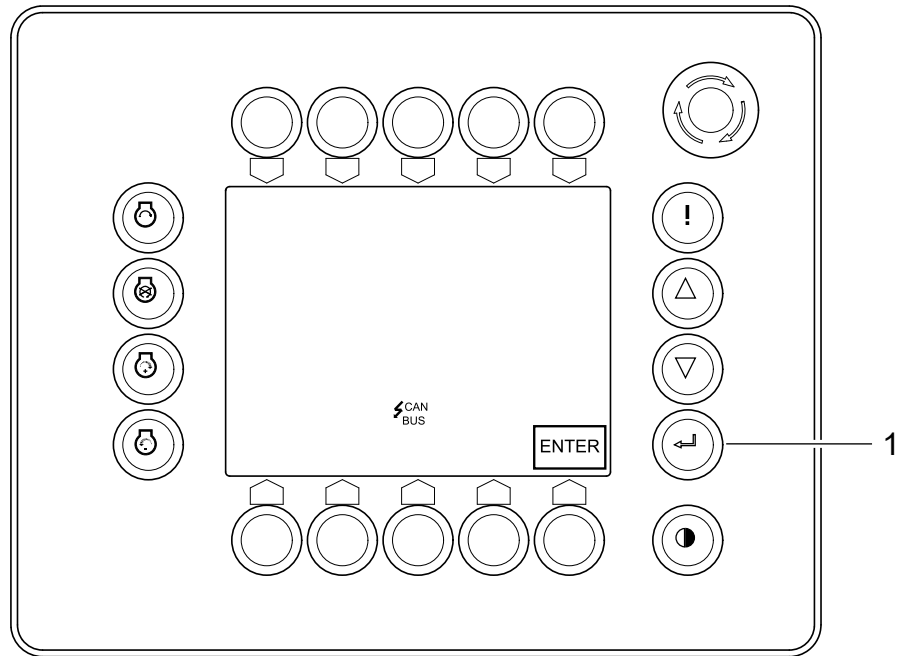
メインディスプレイ右側に直流の12Vと24Vの2つの電源ソケット、助手席左後方に直流の12V電源ソケットがあります。

別の電気機器（点検灯など）の電源をここから取れます。

- メインディスプレイ右側の12V電源ソケットはバッテリーメインスイッチ「ON」、イグニッション「ON」時に使用できます。
- メインディスプレイ右側の24V電源ソケットは、バッテリーメインスイッチ「ON」時に使用できます。
- 助手席左後方の12V電源ソケットは常時使用できます。

8.3.3 スタートメニュー


スイッチの名称



1	メニュー切替スイッチ		
---	------------	--	--

ボタン





メニュー切替スイッチ

 スイッチを押すと、メインメニューになります。

5	右前スライド選択アイコン	12	ブーム未格納アイコン
6	右前スライドアイコン	13	前後方向傾斜表示
7	右後スライド選択アイコン		

表示機能

スライドアイコン

-  アウトリガブームが張出中であることを示します。
-  スライド選択スイッチを選択すると表示します。
-  アウトリガブームが格納中であることを示します。
-  スライド選択スイッチを選択すると表示します。



アウトリガ張出幅表示

1.4 m 個々のアウトリガブームの現在の張出幅を表示します。

右後スライド選択アイコン

-  白黒反転していれば、右後アウトリガブームが選択されています。

右側スライド2本選択アイコン

-  白黒反転していれば、右側のアウトリガブーム2本が選択されています。
- 

右前スライド選択アイコン

-  白黒反転していれば、右前アウトリガブームが選択されています。


前後方向傾斜表示

$\pm 1.4^\circ$ 前後方向傾斜表示は、本機の現在の前後方向の傾斜を表示します。

左右方向傾斜表示

$\pm 0.0^\circ$ 左右方向傾斜表示は、本機の現在の左右方向の傾斜を表示します。

旋回ロック解除アイコン

-  上部旋回体がロックされていません。

2	右後サスペンションシリンダ選択アイコン	9	左後サスペンションシリンダ選択アイコン
3	右後サスペンションシリンダアイコン	10	サスペンションレベリング選択アイコン
4	車高下げアイコン	11	右前サスペンションシリンダアイコン
5	車高上げアイコン	12	アクスル保持アイコン
6	左後サスペンションシリンダアイコン	13	左前サスペンションシリンダアイコン
7	左前サスペンションシリンダ選択アイコン		

表示機能

サスペンションシリンダ選択アイコン





白黒反転していれば、サスペンションシリンダが選択されています。

2. アクスル保持スイッチを押します。
- ⇒ アクスルが現在の位置で保持・固定されます。

本機をアウトリガで水平に支持


1. アウトリガ操作パネルでジャッキ操作メニューを選択します。 [ジャッキ操作メニュー](#)
▶ [183 ページ](#)を参照してください。
 2. アウトリガ操作パネルの全ジャッキ選択スイッチを押します。
 3. アウトリガ操作パネルのジャッキ張出スイッチを、すべてのタイヤが地面から5 cm以上浮くまで押し続けます。
 4. 機械が水平に設置されていることを水準器で確認します。
水平に設置されていない場合は、高くなっているジャッキを縮小して機械を水平にします。
⇒ 機械が水平になり、水平OKアイコンが表示されます。
 5. 本機のすべてのタイヤが地面から5 cm以上浮いていることを確認します。
水平調整の後で地面に接しているタイヤがあったときは、「アクスルを上げる」を参照してアクスルを上げてください。
- ⇒ 本機が安定し、クレーン作業ができるよう水平になりました。

アクスルを上げる

	<p style="background-color: #f4a460; padding: 5px;">⚠ 警告</p> <p>アクスルの動きによる事故の恐れ</p> <p>アクスルを上げると、本機やアクスルが動き、近くにいる人が巻き込まれる死傷事故が起きる恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アクスル上げ中は、本機周りの危険区域にはアクスル上げ操作をする人以外は入らないでください。 2. 危険区域に物を置かないでください。
	<p style="background-color: #0072bc; color: white; padding: 5px;">注記</p> <p>アクスルを上げる際に本機が損傷</p> <p>アウトリガが設置されていないときにアクスルを上げると、アクスルやサスペンションシリンダが損傷することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アウトリガを設置していないときはアクスル上げを行わないでください。

1. 操作パネルでメインメニューを選択します。

9 道路走行時の法的制約

	注記
	道路走行時の法的制約 本機は保安基準緩和車両です。道路を走行するときは、道路交通法に準拠するだけでなく、緩和条件を満たした走行姿勢の順守と特殊車両通行許可の取得および付帯事項の履行を義務付けています。これらのいずれかに違反して走行した場合、「法律」で罰せられます。

本機を道路走行させるときは、次の法律を守ってください。

- 道路法に定める車両制限令
本機は車両制限令で定められた一般制限値を超えている特殊車両です。道路管理者へ特殊車両通行許可申請を行ってください。この許可証は通行する車両に備え付け、その有効期限を越えないように更新する必要があります。
- 大型自動車に対する道路交通法
本機の道路走行には大型免許が必要です。また、高速自動車国道を走行することはできません。

9.1 道路運送車両の保安基準

自動車の運行時の安全性確保、交通の危険防止および公害防止のため、車両の性能、構造について基準を定めたものです。

基準の緩和

本機は保安基準の緩和を受けています。緩和項目とその数値は運転室内の表示板と車両前部、後部の表示板に記載しています。

- 本機の運行速度は60キロメートル毎時以下です。

1. ブレーキペダルを踏み込み、エンジン始動/停止スイッチを押します。

⇒ エンジンが始動します。

エンジン始動後の表示

エンジン始動後は、以下の表示、表示灯、警告灯が点灯します。

- トランスミッションディスプレイにNの表示
- パーキングブレーキ警告灯
- アワーメーター付タコメーター
- 水温計
- スピードメーター
- 燃料計

10.2.2 エンジンの停止

i	エンジン回転数が上がっているときはエンジンを切らないでください。 大きな負荷がかかった後すぐにはエンジンを切らず、数分間アイドリングを行い、クールダウンさせてください。
----------	---

i	電気機器の電源が入っていると、バッテリーが消耗してエンジン始動ができなくなります。
----------	---

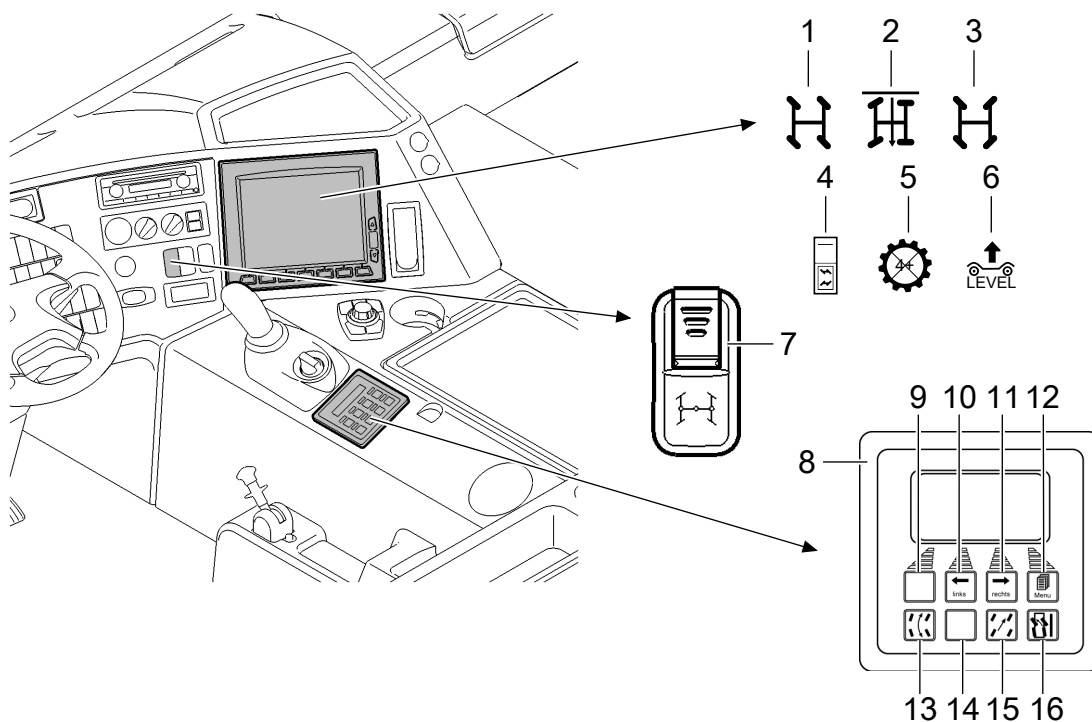
1. パーキングブレーキをかけます。
2. シフトスイッチを「N」位置にします。
3. エンジン始動/停止スイッチを押します。
4. イグニッションロックからイグニッションキーを抜きます。

⇒ エンジンが停止し、イモビライザーが作動します。

操作後の処置

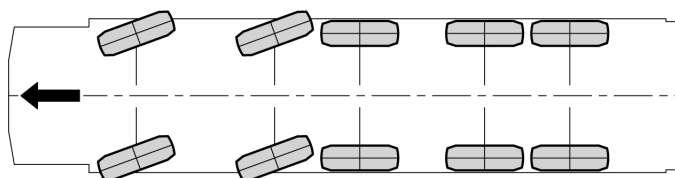
1. バッテリメインスイッチをOFFにします。

10.4.4 操作装置と表示灯の位置



1	クラブステアリングアイコン	9	—
2	脱出ステアリングアイコン	10	手動リヤステアリング (左) スイッチ
3	クランプステアリングアイコン	11	手動リヤステアリング (右) スイッチ
4	特殊ステアリングスイッチアイコン	12	エラー読み出しスイッチ
5	シフトアップ制限アイコン	13	クランプステアリングスイッチ
6	サスペンションレベリングアイコン	14	—
7	ステアリングモード (通常ステアリング/ 特殊ステアリング) 切替スイッチ	15	クラブステアリングスイッチ
8	特殊ステアリングパネル	16	脱出ステアリングスイッチ

10.4.5 通常ステアリングモードへの切り替え



AJ10293-1

必要条件

- 特殊ステアリングモードになっている

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

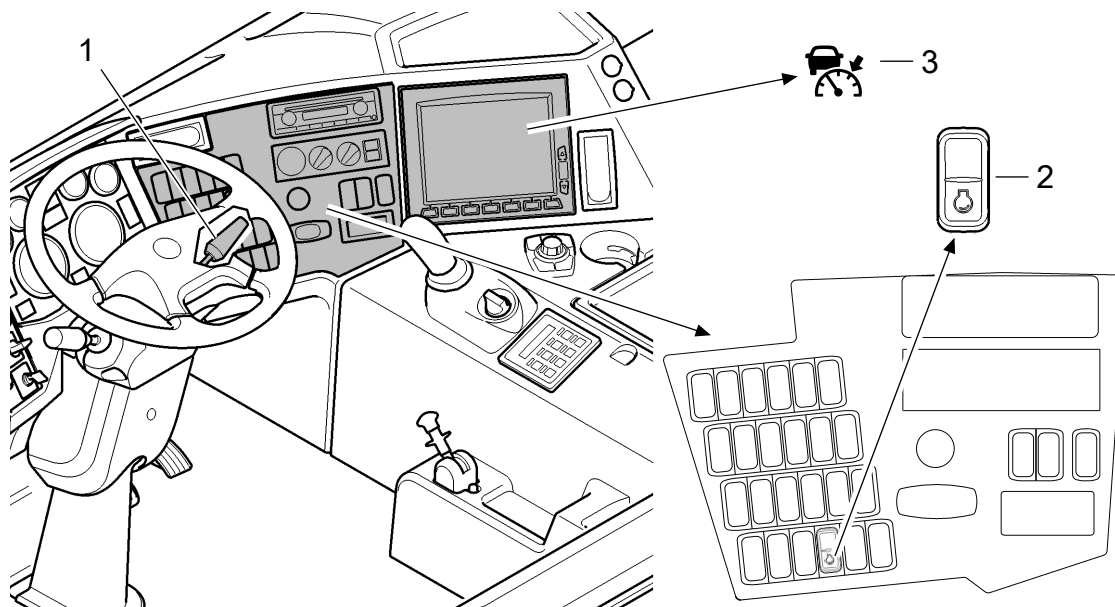
トランスファLo

- 急傾斜地
- 不整地
- 低速走行時
- 車両への負荷が大きいとき
- 寒冷時

トランスファLoに切り替えるには

1. トランスファHi/Lo切替スイッチの下側を押します。
 - ⇒ トランスファLoアイコンが表示されます。
- ⇒ トランスファがLoになります。

各部の名称



1	右コンビネーションスイッチ	3	クルーズコントロールアイコン
2	走行/作業状態切替スイッチ（クルーズコントロールスイッチ）		

クルーズコントロールを使えば一定の速度で走行できます。

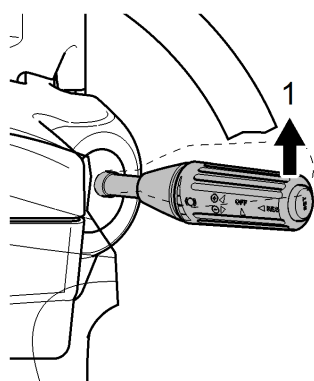
ただし、以下の状況では一定に保てないことがあります。

- 上り坂
- 下り坂

必要条件

- 本機の車速が時速20 km以上

クルーズコントロールを有効にするには



1	クルーズコントロール有効
---	--------------

1. 走行/作業状態切替スイッチ（クルーズコントロールスイッチ）の下側を押します。

10.10.3 構内移動するには

構内移動時の条件

構内でフル装備の状態では移動できるのは、以下の条件が揃ったときのみです。

- ブームが全縮小になっている
- 旋回ブレーキを掛け、旋回ロックピンが入っている
- サスペンションがロックされている
- タイヤのエア圧が9.0 kg/cm²になっている
- アウトリガビームが最大張出状態でロックされている
- フロート接地面の地面からの高さが10 cm以内になるように、すべてのアウトリガジャッキが伸長されている
- アウトリガフロートがクレーン作業位置になっている
- 地面が堅固で凹凸がなく、広い敷地で全体の傾斜が3°以内
- 指定の構内移動姿勢になっている
- 構内移動用の車高になっている

構内移動用の車高にする

1. キャリヤエンジンを始動します。
 2. 走行用の車高にします。
- ⇒ 本機が構内移動の車高になりました。

サスペンションをロックする

1. サスペンションロックスイッチのロックスイッチを押し下げてロックを解除しながら、スイッチの下側を押します。
- ⇒ サスペンションがロックされ、サスペンションロックアイコンが表示されます。

構内移動する

構内移動する

1. アクスル保持を解除します。
2. 構内で本機をゆっくり移動させます。


参考：サスペンションをロックした状態で不整地を走行してタイヤが地面から浮く場合は、本機を停車してアクスル揺動機能を使用してください。

アクスル揺動をする

1. 本機を止める

10.11 本機の駐車

10.11.1 安全上の注意

	⚠ 警告
	<p>本機の逸走による事故の恐れ</p> <p>本機を駐車するときにパーキングブレーキをかけていないと勝手に動き出し、重傷または死亡事故の恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 本機は堅土上に駐車してください。2. パーキングブレーキをかけてください。3. シフトスイッチを「N」位置にしてください。4. 特に上り坂や下り坂では逸走しないよう固定し、必要なら歯止めを使用してください。

10.11.2 本機の駐車

1. フットブレーキで本機を止めます。
 2. シフトスイッチを「N」位置にします。
 3. パーキングブレーキをかけます。
 4. すべての電気機器のスイッチを切ります。
 5. キャリヤ運転室のすべての窓を閉めます。
 6. エンジンを停止し、イグニッションキーを抜きます。
 7. バッテリメインスイッチをOFFにします。
 8. キャリヤ運転室を施錠します。
 9. 必要ならタイヤに歯止めをします。
 10. すべての工具箱を施錠します。
 11. アウトリガ部のすべての操作ボックスを施錠します。
 12. すべての燃料タンクとすべてのAdBlueタンク（キャリヤと上部旋回体）を施錠します。
 13. クレーン運転室のすべての窓を閉めます。
 14. クレーン運転室を施錠します。
- ⇒ 本機が適切に駐車されました。

12.5 キャリヤ油圧系 - 全般




現象	考えられる原因	対策
作動油が使用に適した温度なのに、作動油フィルタ警告アイコンが表示される	フィルタカートリッジが汚れている	フィルタカートリッジを交換してください。
油圧系から大きな音がする	油圧ポンプの不具合	油圧ポンプを修理または交換してください。
	油圧バルブの不具合	油圧バルブを修理または交換してください。
	作動油タンクの吸入管が詰まっている	作動油タンクを清掃してください。
	油圧ポンプが空気を吸い込んでいる	油圧ポンプをただちに止め、エア抜きをしてください。漏れや緩みがないか、そして作動油量を点検し、必要なら作動油を補給してください。
油圧系の動きがぎくしゃくする、またはパワーが出ない	油圧系へのエアの混入	油量を点検し、油圧シリンダのエア抜きをしてください。
	吸入管に漏れがある	ボルト留めの箇所を締め付けてください。
	タンク内の作動油が泡立つ	作動油量を点検し、必要なら補給してください。
	作動油の粘度が不適	外気温に応じて指定されている作動油を使用してください。
作動油の温度が高すぎる	オイルクーラーが汚れている	オイルクーラーを清掃してください。

12.5.1 サスペンションの油圧系

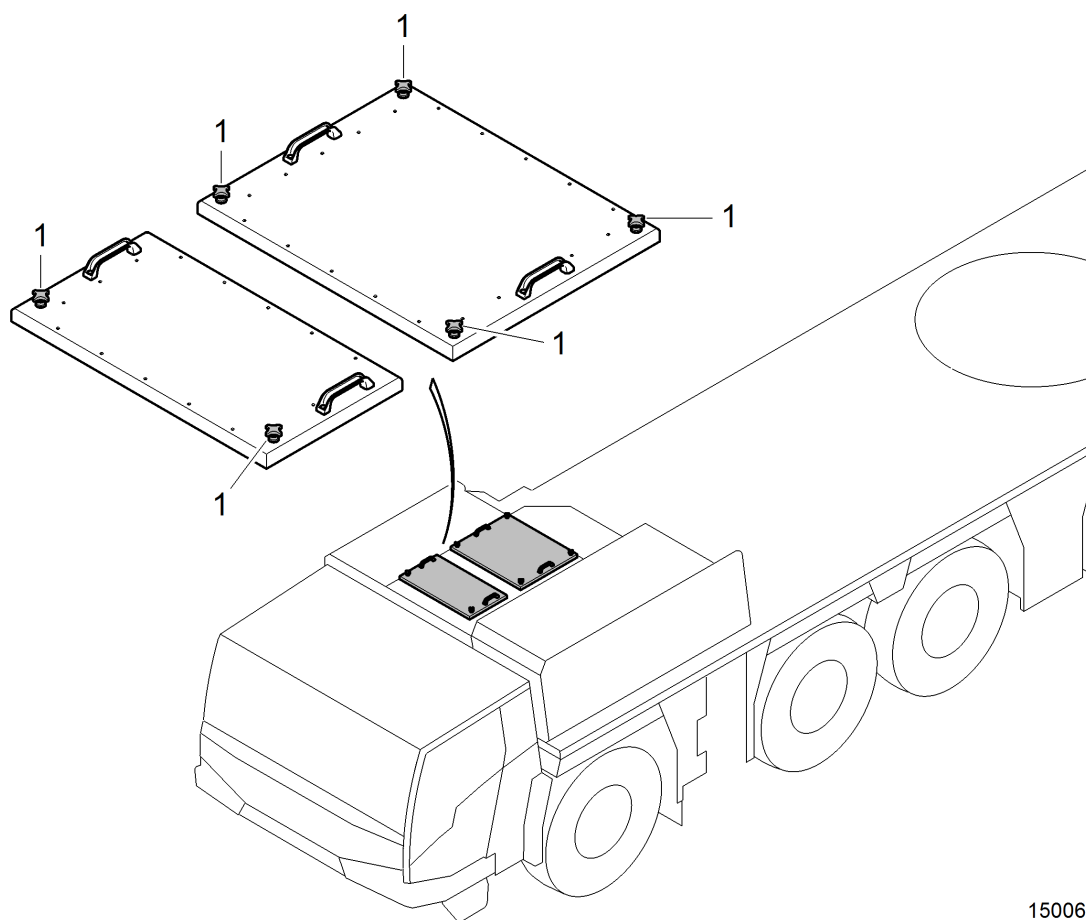
現象	考えられる原因	対策
サスペンションロックができない。アイコンが表示されない	スイッチの不具合、または電気ケーブルの断線	スイッチを交換してください。ケーブルの接続を確認してください。
	ヒューズの不具合	ヒューズを交換してください。
表示灯が点灯しているのにサスペンションがロックできない	サスペンションロックの不具合	バルブブロックを交換してください。
アクスル揺動が作動しない	ヒューズの不具合	ヒューズを交換してください。
	上部旋回体のロックピンが完全に挿入されていない	ロックピンの接続を確認してください。
	近接スイッチの不具合	近接スイッチを交換してください。

13.2 バッテリーの充電

13.2.1 安全上の注意

	<p>⚠ 警告</p> <p>バッテリーの短絡による事故の恐れ</p> <p>バッテリーが短絡すると、大電流が流れて感電や火災が発生し、人身事故や物損事故の恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バッテリーのプラス端子と本機の間が金属で接触しないようにしてください。 2. バッテリーの両極の端子がブリッジされないようにしてください。 3. 短絡したバッテリーには触らず、本機から離れてください。
	<p>⚠ 警告</p> <p>バッテリーの液漏れによる化学熱傷の恐れ</p> <p>バッテリーには皮膚、眼、粘膜に接触すると重大な障害を起こすガスおよび液体が入っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保護眼鏡と耐酸性安全手袋を着用してください。 2. 眼や皮膚に触れた場合は、すぐに大量の流水で洗い流してください。 3. 洗浄した後、医師の診察を受けてください。
	<p>⚠ 警告</p> <p>引火による爆発の恐れ</p> <p>バッテリーから出るガスは引火して爆発する恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マッチやライターなどの火気を近づけないでください。 2. 防爆タイプの照明器具を使用してください。
	<p>⚠ 警告</p> <p>液量不足によるバッテリー破裂の恐れ</p> <p>バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限以下になったまま使用または充電すると、バッテリーの破裂（爆発）の原因になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バッテリーの液量管理を日常から適切に行ってください。 2. 液量が不足しているときは、充電する前に補充してください。

エンジンカバーの取り外し

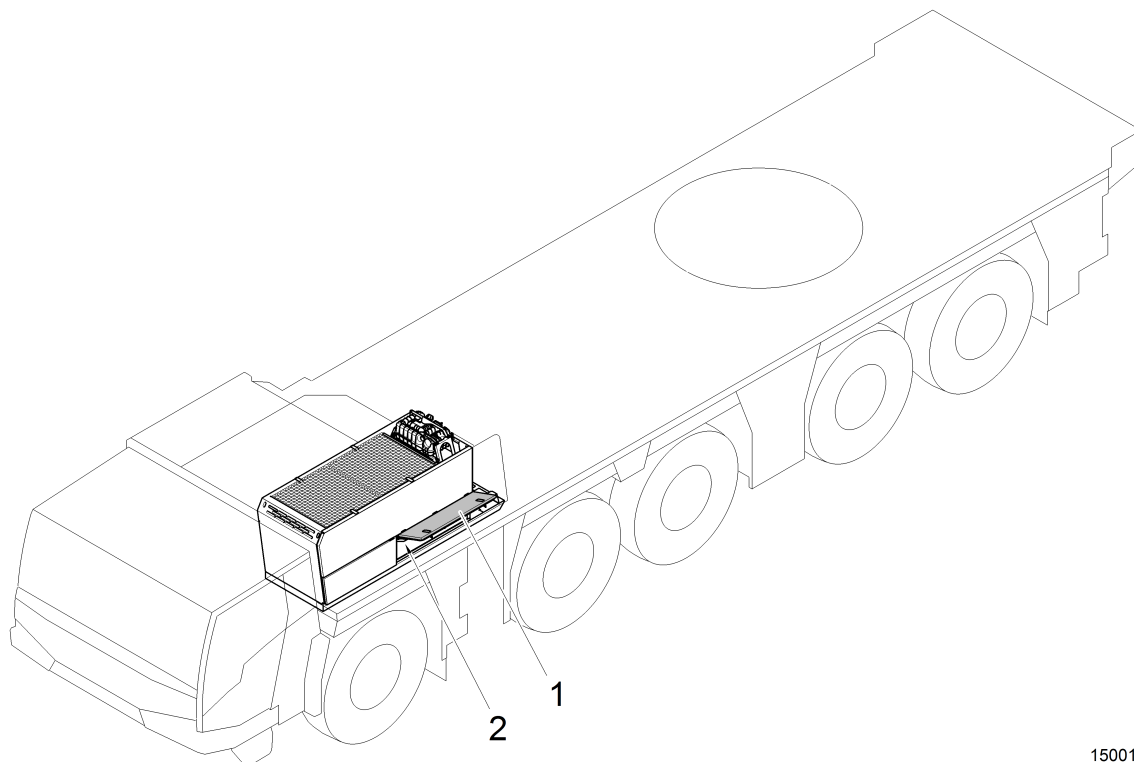


15006

1	ネジ (6個)
---	---------

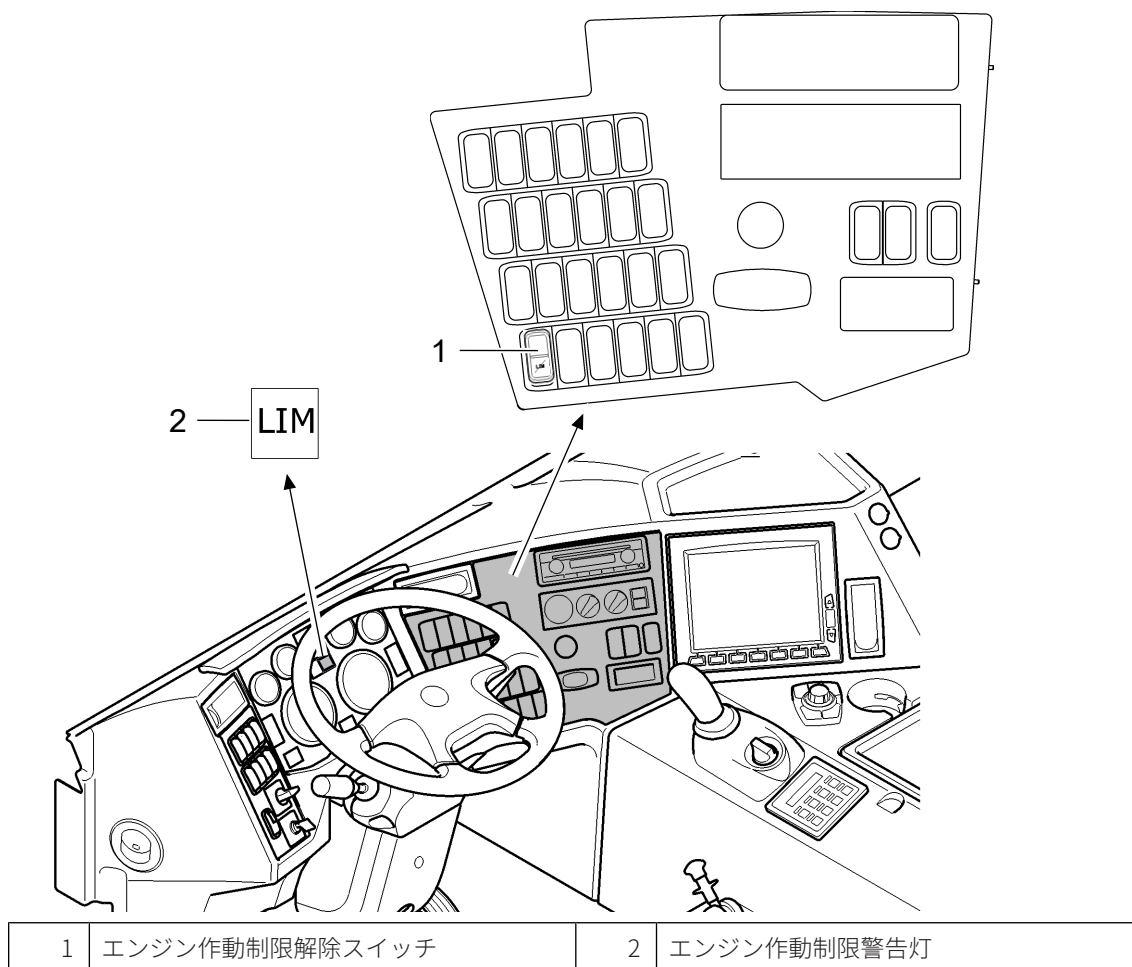
1. すべてのネジを緩めます。
 2. エンジンカバーを外します。
- ⇒ エンジンカバーが取り外されました。

冷却系カバーを開くには



1	後部点検カバー	2	支持棒
---	---------	---	-----

1. 冷却系の後部点検カバーを開き、支持棒で固定します。



- エンジン作動制限解除スイッチを「作動」側にします。
 - エンジン作動制限警告灯が点灯または点滅から消灯に切り替わります。
 - エンジンの作動制限が解除されます。
 - エンジンの作動制限解除時は、断続的に警報ブザーが鳴ります。
- 非常操作が終了すればエンジンを停止し、速やかにAdBlueの補給、またはタダノ指定サービス工場へ連絡してください。

点検整備項目		日常点検	点検整備時期			備考
			1カ月ごと	3カ月ごと	12カ月ごと	
かじ取り装置	ハンドル			○	●	
	操作具合			○		
	遊び、緩み、がた			○		
	操作力の点検			○		
	マイタギヤ	○		○	●	
	ステアリングユニット	○		○	●	
	取付けの緩み				●	
	ロッドおよびアーム類		◇	◆		
	緩み、がたおよび損傷					
	ボールジョイントのダストブーツの亀裂および損傷			○	●	
	タイロッドの曲がり			○		
	ナックル		◇	◆		
	連結部のがた				○	
	亀裂					
	ホイルアライメント				●	
かじ取り車輪				○		
左右の回転角度および直進性						
パワーステアリング			◇	◆		
油漏れ						
取付けの緩み			○	●		
ステアリングシリンダ結合部のがた				○		
ステアリング切替え電磁弁の機能			○			
ステアリングシリンダロッドおよびシリンダ内面の損傷と摩耗					○2年毎	
ステアリングボリュウムコントロールバルブの機能点検					○2年毎	
後輪ステアリングロックの機能			○		後輪ステアリングロック機構方式のみ	

15.9 定期点検・整備項目

		初回時期	100	300	600	1200	2400	点検	整備時期	備考
エンジン関連										
ホースおよびホースクランプの点検	387 ページ		○					b	1カ月ごと	冷却ホースとチャージホース
エンジンオイル、オイルフィルタカートリッジの交換	387 ページ							b	500hごと	整備の詳細はエンジンの取扱説明書を参照してください。
エンジンブレーキの点検	387 ページ							a	1800hごと、 120,000km走行ごと	
バルブクリアランスの点検	388 ページ	600hまたは 40,000km走行後				○		c	80,000km走行ごと	
AdBlueフィルタカートリッジの交換	389 ページ					○		c	1年または 80,000km走行ごと	
冷却水の交換	390 ページ							c	3,600 hまたは3年ごと	
ラジエータ/クーラーの清掃	390 ページ							b		必要に応じて早めに
エアクリーナエレメントの交換	390 ページ					○		b	1年ごと	エアクリーナ警告灯が点灯したとき
ダスト排出口の点検/清掃	390 ページ							b		必要に応じて早めに
エアインテークボックスの清掃	390 ページ							b		必要に応じて早めに、エアクリーナの整備時
エアクリーナ機器の点検	390 ページ		○					b	1年ごと	
排気管の清掃	390 ページ					○		c	1年ごと	

左側の点検カバーを開ける

1. 点検カバーのロックハンドルを押します。
 2. 点検カバーを開き、支持棒で固定します。
- ⇒ 点検カバーが開いて固定されました。

左側の点検カバーを閉じてロックする

1. 点検カバーを少し上げます。
 2. 支持棒を下げて格納します。
 3. 点検カバーを押して閉じ、ロックします。
- ⇒ 点検カバーが閉じてロックされました。

「漏れ」の定義

液量の減少が著しくなければ、システムに漏れはないと考えられます。シール材にしみがあったり湿っていたりしたら、漏れがある証拠です。

エンジンの漏れを点検

冷却水やエンジンオイルが減っていないか外観の目視点検を毎日行ってください。

しずくができたり車体の下に液体が溜まっていたりしたら漏れがあります。他の作業を始める前に点検し、異常があるときはタダノ指定サービス工場で修理してください。

液量低下（冷却水やエンジンオイルの減少）によって漏れを発見することもできます。

液量点検の方法は該当する項目を参照してください。

アッセンブリに漏れがないか、状態が良いか点検

漏れがないか定期的に点検してください。もし、駐車していた場所に油の染みができるなど液体漏れがあった場合は、タダノ指定サービス工場で修理してください。

以下を点検してください。

- トランスミッション
- トランスファ
- アクスル
- デファレンシャルギヤ
- ブレーキ系

油圧系の漏れ点検

必要条件

- 本機が平坦な地面に水平に駐車している
- 本機が逸走しないよう歯止めをしている
- エンジンとイグニッションがOFF

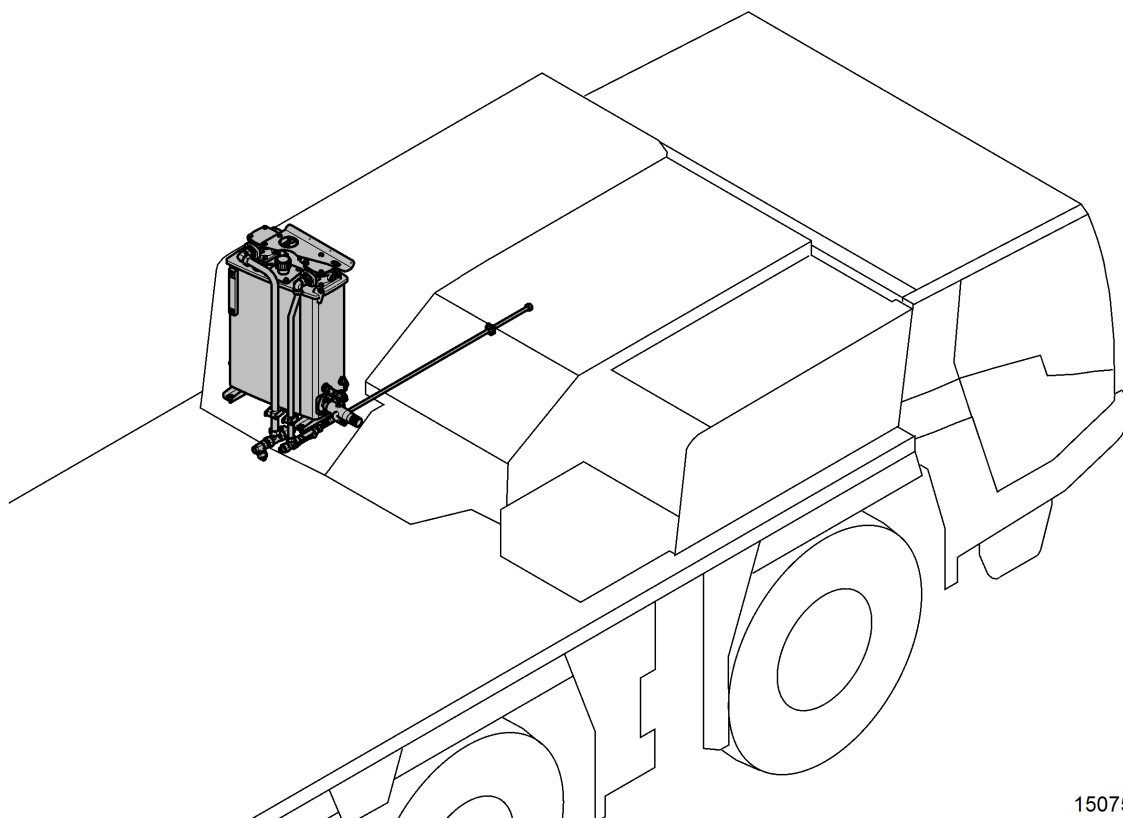
油圧系の漏れと状態を点検

油圧系の漏れや損傷があった場合は、ただちにタダノ指定サービス工場で修理してください。

油圧系には以下のサブアッセンブリがあります。

- サスペンションの油圧系
- ステアリングの油圧系
- アウトリガの油圧系
- 作動油タンク

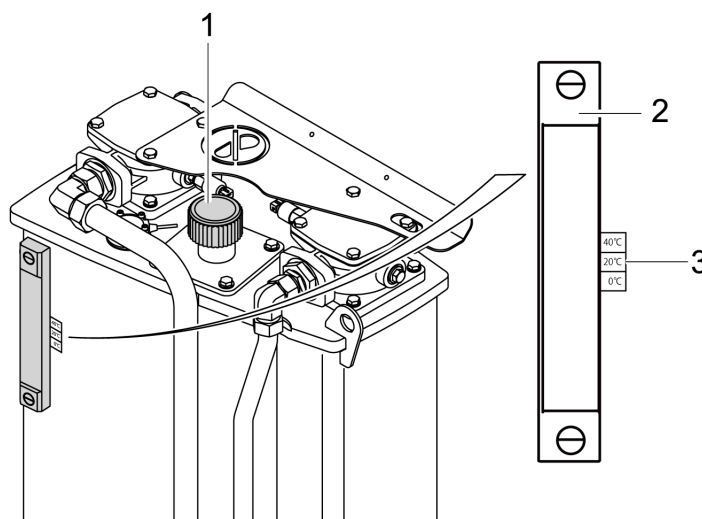
取り付け場所



15075

作動油量点検

各部の名称




AJ10300-0

1	給油キャップ	3	ゲージ
2	油量計		

作動油量点検


5. すべてのロックピンとピン受けに、亀裂や変形がないか確認します。
 6. 不具合のあるときはタダノ指定サービス工場で点検・整備を受けてください。
- ⇒ 目視点検ができました。

15.11.24 フロントガラスの清掃

	⚠ 警告
	<p>窓の汚れにより視界不良に</p> <p>窓が汚れていると視界が悪くなり、人身事故や物損事故の恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運行前に、すべての窓を清掃してください。 2. 運行中でも窓が汚れたときは、ウォッシャー装置とワイパーを作動させて清掃してください。 3. フロントウォッシャー液量を点検し、必要なら補充してください。

1. フロントガラスの汚れを点検し、必要なら清掃します。

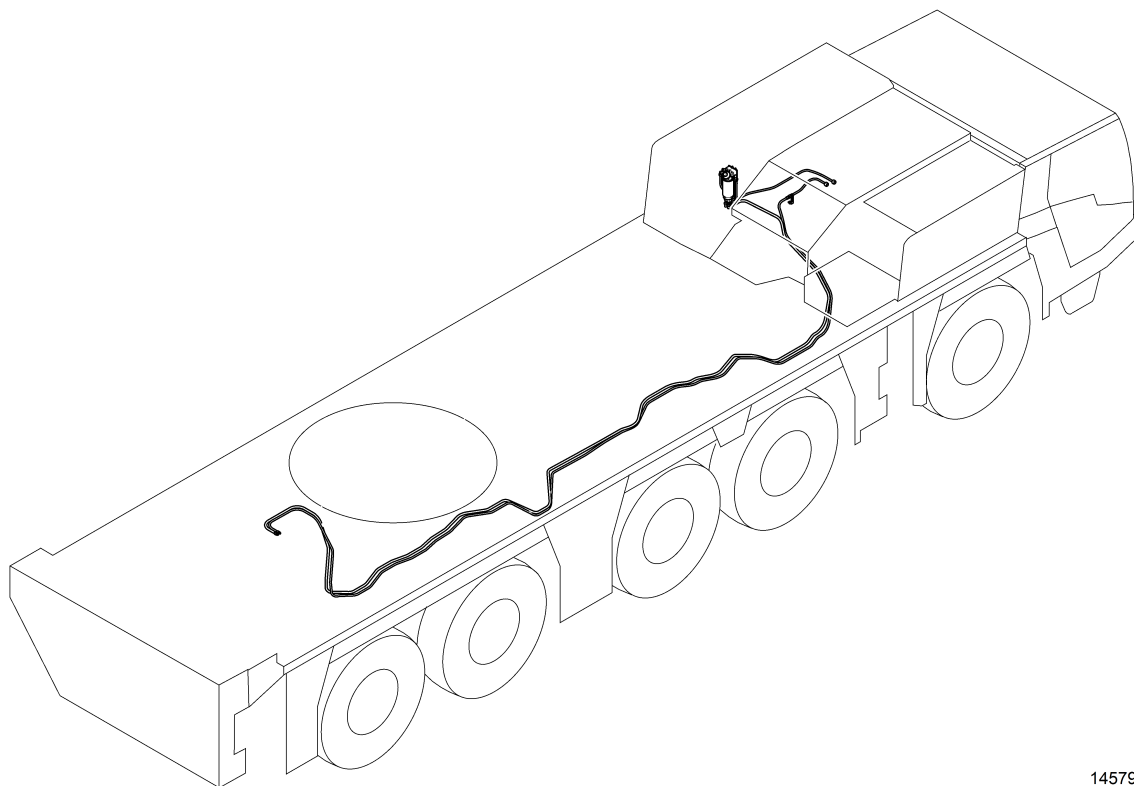
15.11.25 フロントワイパーの点検

	⚠ 警告
	<p>ワイパーの故障による視界不良</p> <p>ワイパーに不具合があると、窓の水気を十分に拭き取れず視界が悪くなり、人身事故や物損事故の恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運行前に、フロントワイパーの点検をしてください。 2. 不具合のあるフロントワイパーは交換してください。

1. フロントワイパーの状態を点検し、必要なら交換します。[フロントワイパーブレードの交換](#) [420 ページ] を参照してください。

15.14.2 ウォータセパレータ

取り付け場所



14579

燃料システムの水抜き

水抜き手順については、整備担当者の点検・整備の[燃料システムの水抜き](#) [▶ 450 ページ]を参照してください。

ウォータセパレータフィルタエレメントの交換




交換手順については、整備担当者の点検・整備の[ウォータセパレータフィルタエレメントの交換](#) [▶ 452 ページ]を参照してください。

燃料システムのエア抜き

エア抜き手順については、整備担当者の点検・整備の[燃料システムのエア抜き](#) [▶ 453 ページ]を参照してください。

15.17 油圧システム

15.17.1 安全上の注意


	<p>⚠ 警告</p> <p>油圧システム内の高圧作動油による人身事故の恐れ</p> <p>エンジン停止状態であっても、油圧システムには高圧がかかっている場所があるため、整備中に重大な人身事故を起こす恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 油圧システムを整備するときは、エンジンを停止してください。 2. 油圧システムの圧抜きをしてください。
	<p>⚠ 警告</p> <p>フィルタエレメントの汚れにより事故や油圧システム損傷の恐れ</p> <p>フィルタエレメントに汚れがあると油圧システムの不具合や損傷が発生し、人身事故や物損事故の恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新品の作動油を、清潔な容器から入れてください。 2. フィルタエレメントは清掃するのではなく交換してください。 3. 作動油交換のときにはフィルタエレメントも交換してください。 4. 作動油フィルタ警告アイコンが表示されたときは、フィルタエレメントを交換してください。 5. フィルタエレメントは規定の交換周期に従って交換してください。
	<p>⚠ 警告</p> <p>油圧システムにエアが混入すると事故の恐れ</p> <p>油圧システムにエアが混入していると、故障して人身事故や物損事故の恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. タダノ指定サービス工場でお圧システムのエア抜きをしてください。

15.20 タイヤ、ホイール

15.20.1 ホイールの寿命


大きな力が断続的にかかったり、軸重が構造上の目安を超えた状態で走行すると、寿命が短くなることがあります。そのため、ホイールは車両の使用状況により定期的に点検し、ディスクとリムとの溶接継ぎ目などの弱い場所の亀裂も点検してください。

亀裂があったときは、溶接で修理しないで交換してください。


	本機のメーカーが承認したホイール以外は使用しないでください。
---	--------------------------------

15.20.2 ホイールナットの締め付け（軸重が13t以下の場合）

安全上の注意

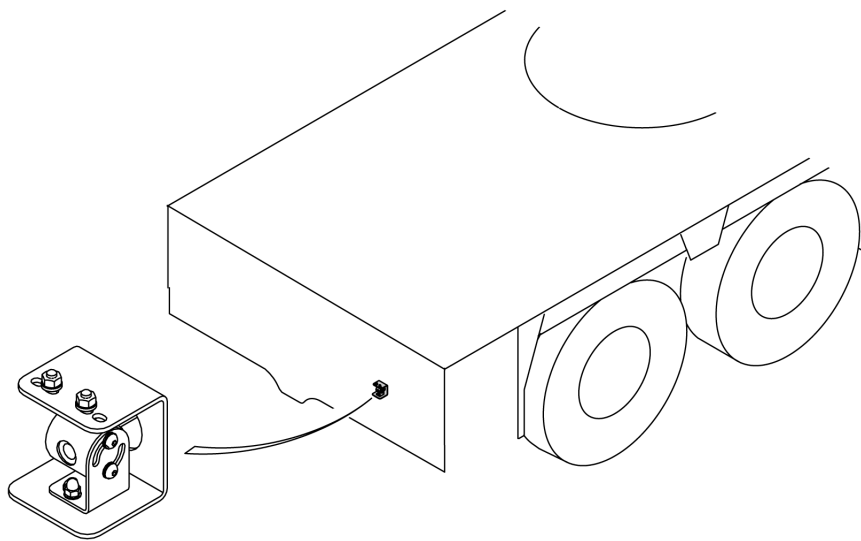
	⚠ 警告
	<p>ホイールナットが緩んでいたたりホイールボルトが損傷していたりすると事故の恐れ</p> <p>ホイールナットが緩んでいたたりホイールボルトが損傷していたりすると、ホイールが外れて人身事故や物損事故の恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホイールナットの緩みと損傷を定期的に点検してください。 2. ホイールナットの締め付けを点検し、緩んでいる場合は規定トルクで締め直してください。 3. 軸重が13tを超える状態で走行する場合は、ホイールナットを締め直してください。

ホイールナットの締め直し

	<p>1本のホイールナットを締め付けたら次は向かい側のボルト、その次は90度離れたボルト、そしてその向かい側のボルトの順番で締め付けてください。</p> <p>トルクレンチを使用してください。</p> <p>ホイールボルトのねじ山を損傷させないでください。</p>
---	--

15.22.6 後方カメラの清掃

取り付け場所



AJ10574-0

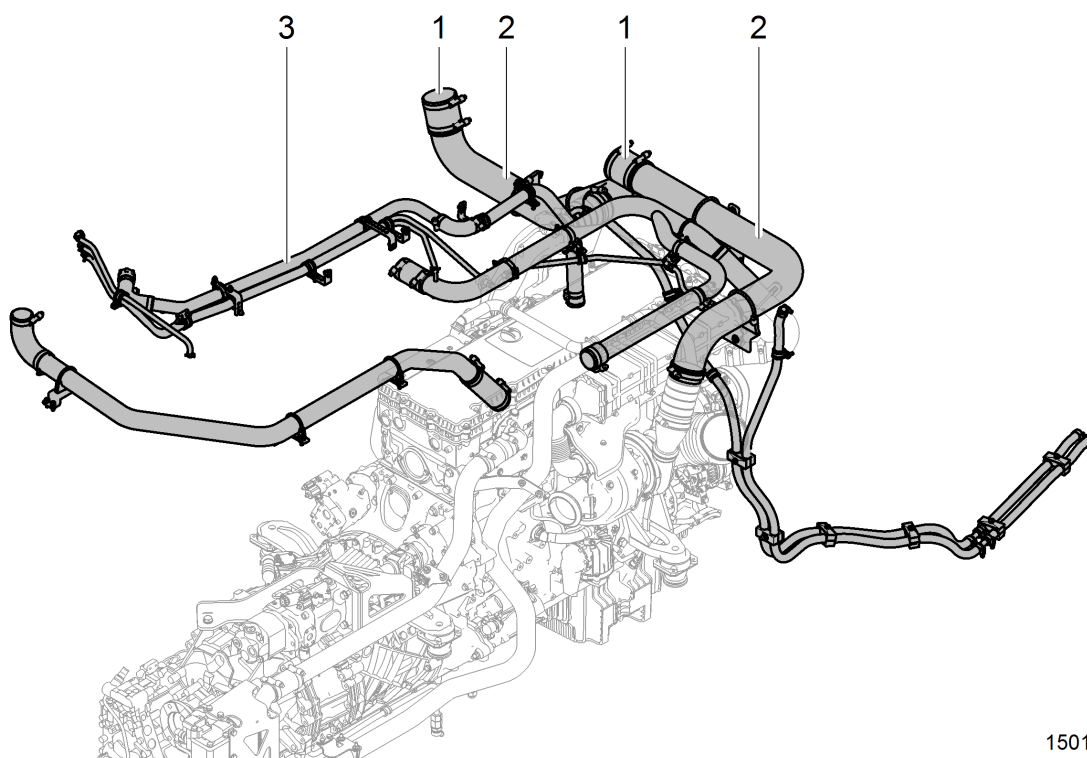
後方カメラはキャリア後部、走行方向から見て右側にあります。

後方カメラの清掃

ビデオカメラ部の点検・整備は不要です。ガラス表面に傷を付けないよう、カラ拭きはしないようにしてください。

1. 汚れがひどいときは、ビデオカメラ部を柔らかい布で水拭きします。

各部の名称



15011

1	エアホース	3	冷却水ホース
2	吸気ホース		

ホースおよびホースクランプの点検

1. 以下のホースに損傷がないか、固定されているかを確認します。
 吸気ホース
 冷却水ホース
 エアホース
2. ホースに損傷があれば交換し、ホースクランプが緩んでいたら締め付けます。


点検後の処置

1. エンジンカバーを取り付けます。
 2. ブームを下げます。
- ⇒ ホースとホースクランプの点検が終了しました。

5. エアクリーナハウジングに損傷や亀裂がないか点検します。
 6. エアクリーナハウジングおよびエアインテークボックス、それぞれの内面とシール面をウェスで水拭きします。
 7. 新品のエアクリーナエレメントを開口側を先にしてエアクリーナハウジングに入れます。
 8. エアクリーナハウジングにカバーを取り付けます。
 9. すべてのキャッチを掛けます。
 10. 右側の点検カバーを閉めます。
- ⇒ エアクリーナエレメントの交換が終了しました。

ダスト排出口の点検/清掃

安全上の注意


	注記
	<p>ろ過されていない空気によるエンジンの損傷</p> <p>ろ過されていない空気をエンジンが吸い込むと、損傷する恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. エアクリーナの整備はエンジンを停止して行ってください。2. エアクリーナエレメントが取り外されている間はエンジンを始動しないでください。3. 作業中に吸気系にゴミが入らないようにしてください。

必要条件

- 本機が平坦な地面に水平に駐車している
- 本機が逸走しないよう歯止めをしている
- エンジンとイグニッションがOFF

ウォータセパレータフィルタエレメントの交換

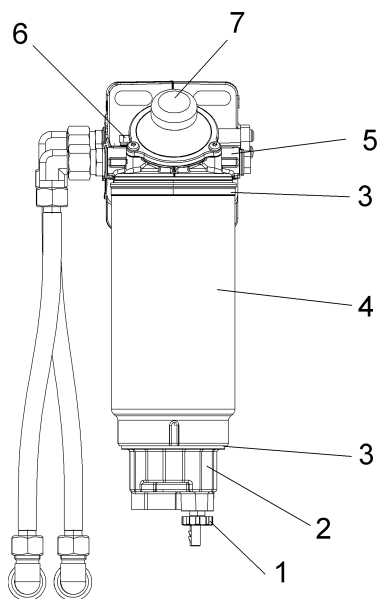
安全上の注意

	注記
	<p>フィルタエレメントの汚れによりエンジンが故障</p> <p>フィルタエレメントが汚れていると、エンジンへの燃料供給に支障が生じ、エンジンの故障や不具合が起きる恐れがあります。</p> <p>1. フィルタエレメントは早めに交換してください。</p>

必要条件

- 本機が平坦な地面に水平に駐車している
- 本機が逸走しないよう歯止めをしている
- エンジンとイグニッションがOFF
- 液体を受ける適当な容器がある

各部の名称



14395

1	ドレーンプラグ	5	フィルタヘッド
2	クリヤカップ	6	エア抜きプラグ
3	シーリング (2個)	7	プランジャポンプ
4	フィルタエレメント		

フィルタエレメントを交換する

1. ウォータセパレータを清掃します。

3. トランスファをオンロードモードにします。
4. エンジンを約1,000 rpmの回転数で約1分稼働させます。
5. シフトスイッチを「N」位置にします。
6. エンジンを停止します。
7. トランスファオイルの温度が50°C以下になるまで待ちます。

トランスファの油量点検

1. 油量点検プラグの周りをきれいにします。
 2. 油量点検プラグを外します。
 - ⇒ 油面がプラグ穴の下端まで来ていれば正常です。
- ⇒ トランスファの油量点検が終了しました。

トランスファオイルの補充

1. 必要に応じて給油プラグからオイルを追加します。
 2. プラグのシール面を清掃します。
 3. 油量点検プラグを清掃して新品のシールを取り付け、締め付けます。
- ⇒ トランスファの油量が適正になりました。




その他の作業

油量点検のときは以下の点検も併せて行ってください。

1. ハウジングやシャフトからの漏れの有無
2. トランスミッションサスペンションの状態
3. 圧縮エア配管からの漏れの有無
4. 電気ケーブルとコネクタ
5. オイルクーラーに出入りする油圧配管からの漏れの有無
6. 非常用ステアリングポンプに出入りする油圧配管からの漏れの有無

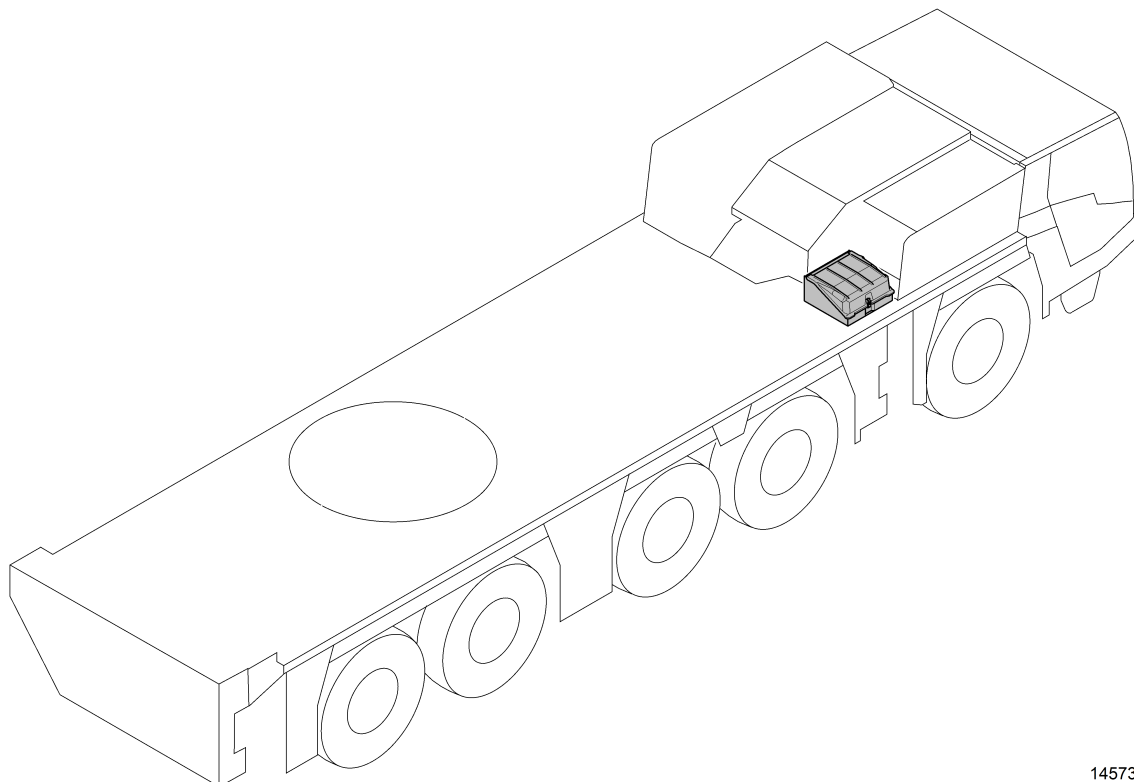
16.6 油圧システム

16.6.1 安全上の注意

	<p>⚠ 警告</p> <p>油圧システム内の高圧作動油による人身事故の恐れ</p> <p>エンジン停止状態であっても、油圧システムには高圧がかかっている場所があるため、整備中に重大な人身事故を起こす恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 油圧システムを整備するときは、エンジンを停止してください。 2. 油圧システムの圧抜きをしてください。
	<p>⚠ 警告</p> <p>フィルタエレメントの汚れにより事故や油圧システム損傷の恐れ</p> <p>フィルタエレメントに汚れがあると油圧システムの不具合や損傷が発生し、人身事故や物損事故の恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新品の作動油を、清潔な容器から入れてください。 2. フィルタエレメントは清掃するのではなく交換してください。 3. 作動油交換のときにはフィルタエレメントも交換してください。 4. 作動油フィルタ警告アイコンが表示されたときは、フィルタエレメントを交換してください。 5. フィルタエレメントは規定の交換周期に従って交換してください。
	<p>⚠ 警告</p> <p>油圧システムにエアが混入すると事故の恐れ</p> <p>油圧システムにエアが混入していると、故障して人身事故や物損事故の恐れがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. タダノ指定サービス工場でお圧システムのエア抜きをしてください。

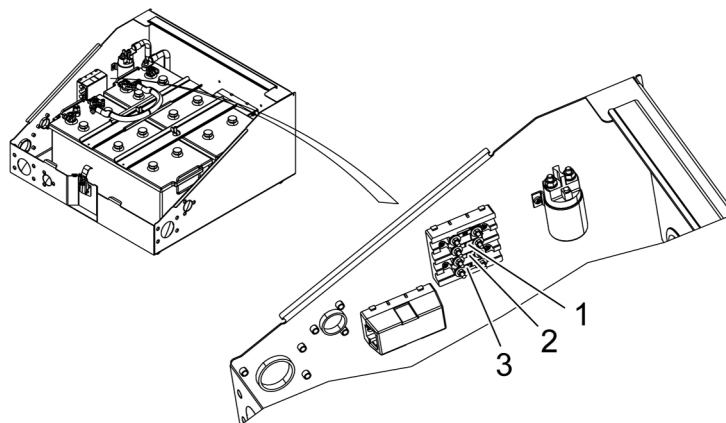
バッテリー室のヒューズ

取り付け場所



14573

各部の名称




AJ10116-0

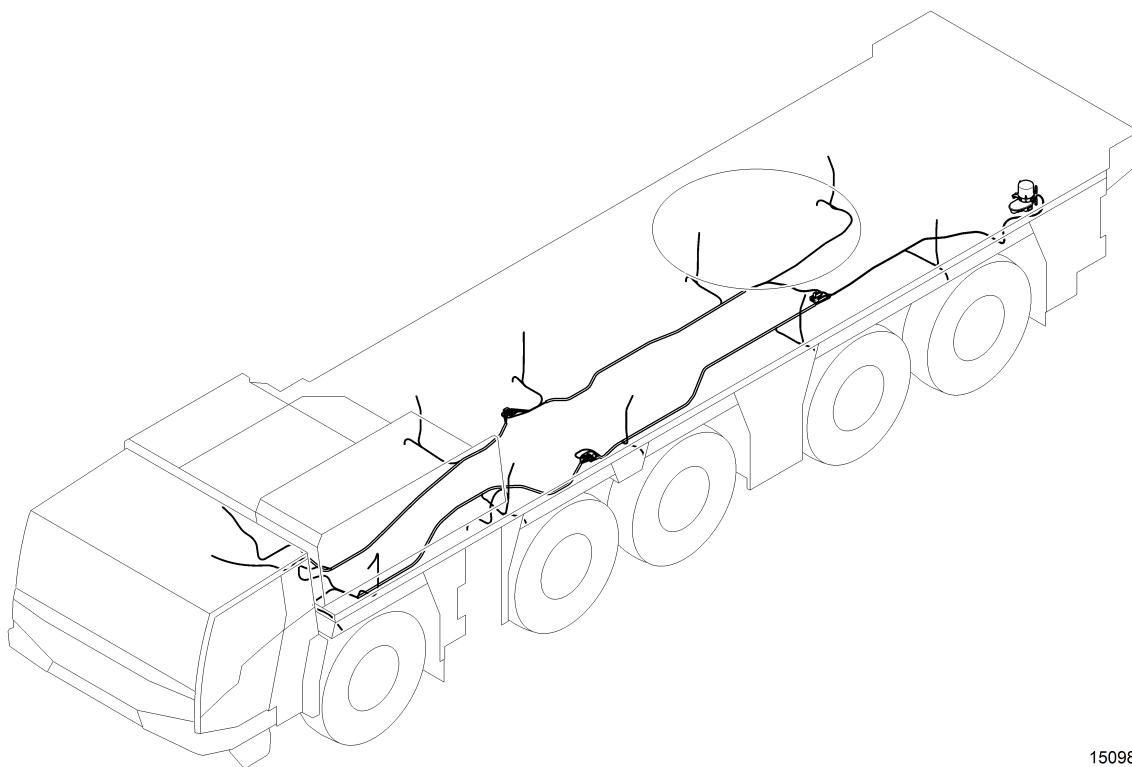
1	キャリアヒューズ (F0200)	3	キャリア運転室ヒューズ (F0202)
2	クレーンヒューズ (F0201)		

16.11 集中給脂システム

16.11.1 安全上の注意

	注記
	<p>集中給脂装置の取り扱い時の注意</p> <ol style="list-style-type: none">1. グリースが無い状態で集中給脂装置を作動しないでください。エアの混入、および誤作動の原因になります。2. 銘柄の異なるグリースを混用しないでください。混用すると、性状が変化して悪影響を及ぼすことがあります。グリースを補充するときは、同一銘柄のものを使用してください。 やむを得ず銘柄の異なるグリースを使用するときは、元のグリースをすべて取り除いてから、新しいグリースを入れてください。

16.11.2 取り付け場所



15098

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL